

「ギザタイト」で集中力持続、実力発揮を 今年も「受験生応援ゆるみ止めねじ」 プレゼントキャンペーンを開始!

当社では2014年から毎年「受験生応援ゆるみ止めねじプレゼントキャンペーン」を実施しています。これは当社のゆるみ止めねじ「ギザタイト」を「ゆるまない＝集中力持続＝実力が発揮できる」のシンボルとしてとらえ、希望する受験生にプレゼントするものです。今年も12月1日から受付を開始し、すでにたくさんの方からご応募をいただいています。



受験生応援ねじについてはご存じの方もおられると思いますが、改めて簡単にご説明すると——、当社の樹脂用ゆるみ止めねじ「ギザタイト」を産業用そのままではなく、受験生仕様に仕上げたものです。合格につながるよう頭部の形を五角（ごかく≡ごうかく）にし「折成就」と刻印。ひとり一人が輝けるようにとあざやかな金色加工を施し、さらにはリラックス（気持ち軽く）してという想いも込めて、素材は軽量のアルミニウムを使っています。またねじを収める袋には当社キャラクターのねじっとかんの応援メッセージもあり、外箱のQRコードからは、受験生に役立つ豆知識や情報が読み取れるようになっています。

こういったさまざまな工夫、受験生を心から応援したいという想いが多くの方々へ支持され、たくさんのメディアにも取り上げていただき、これまでのべ5万人近い方々へプレゼントしてきました。

受験生応援ねじは個人を対象に当社ホームページから受け付けているほか、クラス単位や学校単位などでも別途受け付けており、毎年、全国津々浦々からお問い合わせをいただいています。右は『地方議会人』という全国の議員の方々の研修のための雑誌ですが、この雑誌の本年11月号のなかで、

当社の受験生応援ねじのことが大きく取り上げられました。

「地方創生のためには若い世代を大事にすることが大切である。あの手この手、地域特性を活かしながら次代を育てる、応援することが肝要である」と……その具体的な一例として紹介されたものです。

人生の大きな節目のひとつを悔いのないようにしていただくため、当社ではこのキャンペーンを大切にしていきたいと思っています。身近なところに受験生がおられましたら、ぜひご案内いただければ幸いです。

詳しい
応募概要は
こちら▶



小学生の職業体験で「ねじづくり」プログラム

当社が本社をおく綾部市で10月14日に「地球市民の日」が開催され、地元の商工会議所青年部が企画した小学生の職業体験プログラム「あやザニア」に、当社も協力いたしました。当日は当社展示室に子供たちとその親御さんをお迎えし、当社展示機械の「ローラ第一号機」で実際にねじ山ができるのを見てもらい、また紙粘土を使った「ねじづくり」や直径わずか0.6ミリの「極小ねじ締め」を自分の手でしっかり締められるかといったチャレンジを楽しんでいただきました。「こんなふうになじができるとは思わなかった」「ねじが大切なものだとうれしかった」という感想が寄せられ、地域の方々に当社事業をご理解いただくことができました。



当社の第一号機でねじができるのを見学。右は紙粘土でオリジナルの「ねじ」づくり

スポーツ大会で当グループ社員が大活躍

当社従業員の岩崎拓夫がパラグライディングで世界的に活躍していることは当欄でいく度か紹介していますが、本年10月に更新された「FAI国際ランキング」では、日本人トップとなりました。岩崎は年内の国内大会を経て来春行われる「スーパーファイナル」に出場し世界のトップを目指します。また当社グループ企業のケーエム精工の井岡聖一三重工場長は10月に行われた「燃ゆる感動かごしま国体」のボウリング競技に三重代表の一人として出場。男女総合得点で競う天皇杯では総合4位に輝きました。



国体に出場した井岡聖一工場長と4位入賞の表彰状

日東精工はスポーツ庁の「スポーツエールカンパニー」の認定を受けています。従業員がスポーツを通して心と体の健康をととのえ、また地域交流に貢献していくことをこれからもサポートしてまいります。

カブ愛好家の「カブ活フェスタ」で当社の「シェアクロス」を限定販売しました！

10月29日、HONDAのカブ（小型オートバイ）を愛する「カブ主」たちが一堂に会する「カブ活フェスタ2023 in綾部」が開催され、当社も協賛しました。あやベグゼススクエアに設置された特別ブースに当社のねじ「シェアクロス」を装着したカブを展示（ナンバープレートやカバー、ヘルメットにアルマイト加工でドレスアップしたねじを装着）しました。

当社のねじは企業間取引（B to B）のオリジナルがほとんどですが、今春、発売した「シェアクロス」は番手が異なるドライバビットを共通使用できる十字穴を有した新製品。当ニュースレターでも一般消費者向けにも販路拡大が期待できるものと紹介しましたが、それに応える取り組みとして、この「シェアクロス」を本イベントで限定販売しました。当日はカブ好き約500名が来場し、当社のシェアク



当社の「シェアクロス」を装着したカブを展示
左ノイベント向けに2個セット500円で販売

ロスを使ってよりカスタマイズできると、好評を博しました。

ねじ用十字穴「シェアクロス」

「シェアクロス」は、たとえば2番と3番といった番手の隣り合うドライバビットを共通使用できるよう、小さいサイズの十字穴を基本形状としつつ、これに大きいサイズの十字穴を重ね合わせた形になっています。その上でトルクを伝達する駆動面を共通使用する構造になっており、これにより、ドライバビットの最適な嵌め合いを実現し、駆動部としての性能を最大限発揮できるようになっています。



NEW PRODUCT [新製品]

11月14日に3つの新製品をリリースしました。

ファスナー事業本部では異種金属接合技術「AKROSE」を応用した金属被覆技術を開発。めっきに比べ環境負荷の低減・処理時間およびコスト削減ができるほか、形状・膜厚の自由度の向上、耐摩耗性の向上にも貢献します。AKROSEにより冷間圧造が可能な材料であれば接合できるため、めっき処理が困難なアルミニウムなども、めっき皮膜に相当する金属として被覆することが可能です。

産機事業本部の「NXドライバT3 SD600Tコントローラシリーズ」は、これまでの低トルクモデル3機種に次いで、高トルクモデルの2機種も「CEマ



▲ファスナー事業



▲産機事業



▲制御システム事業

ーキング」に対応。ヨーロッパ市場の要望に応えてのもので、これまで以上に拡販が期待できます。

そして、制御システム事業本部ではA Iを搭載した高性能検査選別装置



「ミストル (MISTOL®) AI」
標準タイプ

「ミストル (MISTOL®) AI」を開発。従来、難易度が高かった画像設定を効率化し、作業者の熟練度に依存しない設定を行うことが可能となりました。設定作業の工数削減および人の熟練度や感性に依存しない安定した検査で、お客様のモノづくりをサポートする製品です。当社ではお客様満足度120%を目標に、常に時代の先を見据えて技術開発に取り組んでまいります。



NITTOSEIKO'S SDGS (サステナビリティ経営推進)

音楽活動を通して地域とつながる

当社では従業員が働きやすい環境づくりに努める一方で、一人ひとりが社会とのつながりのなかで自己研鑽していくことを推奨しています。



DJ Makotoの名前で活躍。地域のイベントに参加しDJを披露

P2で紹介しているスポーツ活動のほかにも、たとえば「音楽」があります。当社ファスナー事業本部の田原誠人はDJ（ディスクジョッキー）としても活躍しており、昨年の日本大会では1位、世界大会で準優勝に輝いています。DJの魅力は「その場にいる人たちとひとつになってその空間をつくりあげること」だそうで、地元のイベントなどにも出演しています。

また、海外での事例を挙げるなら、当社執行役員

の上原規がインドネシア・ジャカルタの現地法人NAI社赴任を終え帰国する際に、同国第2の都市スラバヤにある楽器メー



合同演奏会

カー、ヤマハの現地法人「YMPI」社と在ジャカルタの日本人吹奏楽団「OTJJ」をつなげることに貢献しました。双方の交流が始まり、このほど「OTJJ」の「YMPI」への工場訪問や「YMPI」社内の吹奏楽団との合同演奏会といった心温まるイベントが実現しています。「ねじ」はひと目見るだけで、世界中の老若男女、誰もが「ねじ」とわかりますが、「音楽」も世界共通のもので、言葉を介さずつながる、つなげることができる素晴らしいものですね。

当社では今後も個々のさまざまな活動を通しての「つながり」をサポートしてまいりたいと思います。

プロは常に多面的

荒賀誠

プロ
ロスボーツの判定にビデオ検証が導入されています。より

正確・公平にジャッジされ、かつてワールドカップサッカーでマラドーナ選手が得点を挙げた「神の手」などは、もう起こり得ないことでしょう。AIがすべて仕切るようになり、もはや審判員はいらなくなるのではという声も聞こえてきます。

しかし審判員の役割は正確にジャッジすることだけではありません。判定が選手だけでなく観客にもわかりやすく伝わるように、体の動き、声の出し方にも気をくばらないといけません。笛を吹くタイミングも大事ですし、反則かどうかを見極める

以前に、反則を犯さないようゲームのコントロールも大事です。

審判員（主審）は多面的に見ることができ、そのなかで最善をチョイスできるプロフェッショナルです。レベルの高い審判員、そうでない審判員などがネットで賑わうこともあります。さまざまなスポーツの世界大会で日本人審判が選出されているのはうれしい限りですね。

私どもの仕事も「いい製品づくり」は当然のことですが、それをどう伝え、どのように組み合わせるのかなど、常に多面的な視点を忘れないようにしたいと思います。

題字・文 代表取締役社長 荒賀誠

「幸せ」を見つけるヒント — 12月

新しい図書館への期待

図書館といえば本を閲覧・貸出しなどができるところ、あるいは静かに自習できるところととらえがちですが、じつはそれだけではありません。本に関するあれこれの問い合わせに対応し、また地域の資料を大切に保管し守っていく役目もあります。さらに絵本の読み聞かせ会や音読の会などを開催したり、人形劇など種々のイベントも主催したり、情報発信をしたりと、さまざまな顔をもっています。

当社が本社をおく綾部市の図書館が先月11月25日、JR綾部駅北口に移転しリニューアルオープンし

ました。スペースが広くなり利便性がアップ、地域コミュニティを深める場としての期待が高まります。

当社では書籍『人生の「ねじ」を巻く77の教え』の印税などをもとに児童書を2015年から毎年、図書館へ寄贈してきましたが、新図書館には「汽車型紙芝居収納ワゴン」を寄贈させていただきました。地域の特性を活かした綾部らしい図書館へ発展していくよう、これからも応援してまいります。



日東精工代表取締役会長
綾部商工会議所会頭

材木正己

※日東精工はサステナビリティ経営（絆経営）を通して皆さんの幸せを願っています。



発行：日東精工株式会社経営戦略本部経営企画室

当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲覧いただけます